

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Spring 2011

Office of Professor Eiichi Hara
Department of Literature and Culture in English
Tokyo Woman's Christian University
2-6-1 Zenpukuji, Suginami-ku, Tokyo 167-8585
E-mail : hara***@****
<http://www.dickens.jp/>



2011年6月30日



2011年春季大会報告 Spring Conference, 2011 at Kobe College

今年の春季大会は、6月4日（土）に、緑豊かな森の中にある神戸女学院大学の美しいキャンパスで開催されました。梅雨に入りましたが、幸い天候に恵まれ、南欧の建物を思わせる瀟洒な会場エミリー・ブラウン記念館には60名ほどが集いました。研究発表はありませんでしたが、二つの意義深い講演が行われ、さらにプロの俳優によるディケンズ作品朗読という画期的なプログラムも生まれ、実に内容豊かな大会となりました。会場をご提供くださり、裏方の雑務をこなしてくださった上に、講演の司会もお引き受けいただいた溝口薫さんに深く感謝申し上げます。



第1部 特別講演 Special Guest Lecture

司 会：佐々木徹（京都大学教授）

Dr John Drew (University of Buckingham)

‘Charles Dickens’s Weekly Magazines (1850-70) and the “Business of Leisure” ’

日本支部会員の投票によって招待されたジョン・ドルー氏は、今最も活きのいいディケンズ研究者の一人です。氏はまず自分がディケンズのジャーナリズム研究に入ったときに、田辺昌美の『*The Uncommercial Traveller*研究』に出逢って衝撃を受けたエピソードから始めました。誰も研究していないものだから、自分が一番乗りだと思っていたら、何と日本ですでに研究書が出ていたというわけです。ドルー氏は、若いディケンズが速記者として活動を始めたときから、生涯を通してジャーナリストとして進化を続けたことを丹念に跡づけていきました。パワーポイントを使いこなし、*Household Narrative*の貴重な現物を示すなどして、聴衆を惹きつけましたが、『無商旅人』中の‘Chatham Dockyard’を取り上げ、その巧みなレトリックを分析してみせたところなど、優れた読みに感心させられました。全体として期待に違わない、若い情熱と意欲にあふれた講演でした。



ドルー氏は現在、ディケンズのジャーナリズム全てをデジタル化するという大規模なプロジェクトをバッキンガム大学を拠点として推進しています。技術の進歩によってテキストのスキャニングの精度はかなり上がりましたが、学術資料として十分に価値あるものとするためには、エラー修正が欠かせません。膨大な電子化資料の修正には多数のボランティアの協力が必要です。意欲ある日本のディケンズファンは

ぜひドルー氏のサイトを訪問し、登録して、このプロジェクトに参加してください。

詳細は次の場所にて。 <http://www.buckingham.ac.uk/djo>



第2部 ディケンズ長編全訳刊行記念講演 Special Lecture

司 会：溝口 薫（神戸女学院大学教授）

田辺 洋子（広島経済大学教授） Dr Yoko Tanabe

「翻訳をめぐる」On Translating Dickens

田辺洋子氏は、この度『大いなる遺産』（溪水社）の刊行をもって、『ピクウィック』から『エドウィン・ドルード』に至るまでのディケンズ全長編小説の個人全訳を完成されました。本大会では、この驚異的な偉業達成を記念して、講演を行っていただきたいと支部長から要請しました。以前から何度か要請していたのですが、今回ついに（前支部長の西條さんの説得もあったらしく）、雑談のようなものでもよければ、ということで、お引き受けいただきました。

過去十数年間にわたるディケンズ翻訳作業について、いろいろなエピソードが紹介されました。このとてつもない訳業を田辺氏に決意させたきっかけが、後輩の松岡光治氏の

一言だったなど（どこまで本当なのでしょう）、独特の飾らないユーモアを随所にちりばめたお話しぶりには惹きつけられました。中でも興味深かったのは、最初の翻訳『互いの友』（こびあん書房）を訳し終えたとき、原稿を読み返してみ、「これでは英文和訳でしかなく、翻訳ではない、だめだ」と思い、全面的かつ大幅な改稿を行ったということです。あの独特の「田辺節」はこのときできあがったというのです。

田辺氏の語りは、静かな口調ながらも、前人未踏の偉業をやったのけた人間でなければ持ち得ない重みと迫力が感じられるものでした。



第3部 特別公演 ディケンズ作品朗読 A Reading of Dickens by a Professional Actor

司 会：梅宮創造（早稲田大学教授）

佐藤 昇（俳優・グローブ文芸朗読会主宰）

「ドクター・マリゴールド」 'Doctor Marigold' by Noboru Sato

佐藤昇氏は、ディケンズ作品の公開朗読を続けており、ディケンズの面白さを日本の一般聴衆に広めることに大きな貢献をされておられます。『ディケンズ公開朗読台本』（英光社）を翻訳出版された梅宮創造氏のご仲介により、プロの俳優による朗読という画期的な企画が実現することになりました。

タキシードに身を包んだ佐藤氏が登場すると、一瞬にして会場は教室から劇場空間に変わりました。おなじみの「ドクター・マリゴールド」を佐藤氏はたくみな語りで熱演されました。さすがプロの朗読は違います。たたき売りのコクニー訛りの口上を見事な日本語訳に移し替えた梅宮氏の台本は、佐藤氏によって生き生きと演じられ、笑いをさそいます。一方、最愛の娘ソフィーが死ぬ場面では限らない悲しみが聴衆の胸に迫りました。そのソフィーの身代わりとしてマリゴールドの慈愛を一身に受けて育てられた障害のある娘が、やはり障害



のある夫と、二人の間に生まれた娘（三人目のソフィー）をつれて、「父」と再会する最後のクライマックスでは、ついに涙腺がゆるみました。後に残ったのは、ディケンズを読んで必ず得られるあの名状しがたい幸福感そのものでした。

このすばらしいパフォーマンスをしてくださった佐藤氏と仲介の労をとってくださった梅宮氏に、深く感謝申し上げます。

田辺洋子氏出版祝賀会 Evening Party in Honour of Dr Yoko Tanabe

於 愛蓮門戸店

大会終了後、私たちは、感動を反芻しつつ、門戸厄神駅前の懇親会場へ向かいました。参加者は、ドルー氏と佐藤氏も含め、40名超で、盛会となりました。今回の懇親会は「田辺洋子氏出版祝賀会」として、田辺さん（ここからはフェロウシップの仲間としてこう呼ばさせていただきます）の偉業を讃える会としました。司会をお引き受けいただいた西條さんは、立派なプログラムを印刷してくださいました。田辺さんへ花束と記念品の贈呈が行われた後、支部長から祝辞を呈し、乾杯となりました。例によって和気あいあいの喧噪の中、美食を楽しんで一段落というところで、来賓からのご祝辞がありました。広島経済大学学長の前川功一氏と溪水社社長の木村逸司氏から、私たちの知らない田辺さんの人となりの一端を紹介されつつ、お心のこもったお祝いのお言葉をいただきました。お二人には遠路お越しいただき、本当にありがとうございました。

私たちの誰もが予想していることですが、田辺さんの訳業は未だ終わってはい



松本靖彦氏から記念品を贈呈

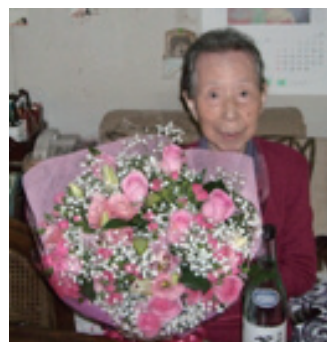


（左から）植木研介氏、木村逸司氏、田辺洋子氏、松村昌家氏、前川功一氏

ません。ディケンズの作品は長編以外の代表的なものだけでも、『クリスマス・ブックス』に『クリスマス・ストーリーズ』があります。少なくとも「ディケンズ小説個人全訳」が完成するまでは田辺さんは走り続けることでしょう。リトル・ドリットを思わせる小柄で瘦身の田辺さんのどこにあのエネルギーが備わっているのでしょうか。松村先生は「今年一年は休め」と言われましたが、いかに松村先生のご命令とはいえ、田辺さんは従わないでしょう。くれぐれもご健康に留意されて、さらなる未知の領域へ進まれることを会員一同を代表してお願い申し上げます。

恒例の二次会は西宮北口駅近くの「天花」に場所を移して行われました。こちらの参加者は16名。数名の常連の顔が見えなかったのは広島や名古屋へはその日のうちに帰れるという場所だったからでしょう。いずれにしても歓談はいつ果てるともなく続き、私は他の四、五名の方々とともに早めに退散しましたので、ドルー氏をはじめ後に残ったハードコアの連中がその後どうなったかは知りません。

田辺さんの訳本のあとがきにしばしば登場することで分かりますが、偉業の陰の立て役者は、田辺さんのお母様です。残念ながら祝賀会にはご参加いただけませんでしたが、後で田辺さんからお写真をお送りいただきました。ご貢献に対して、日本支部一同からあらためて感謝を捧げたいと思います。



祝賀会でのゲストと会員のスナップ。佐藤昇氏（左）、ジョン・ドルー氏（右）



大会のお手伝いをしてくださった神戸女学院大学の学生の皆さん。ありがとうございました。

諸 報 告 Notices

(1) 『年報』第34号の編集について

※論文投稿は6月10日で締め切りました。2篇の投稿があり、現在理事により審査中です。

※自由投稿記事・ニュースの締切りは9月20日とします（支部長宛に「可能なかぎり電子メールで」お送りください）。

(2) 日本におけるディケンズ研究書誌作成について ご協力をお願い

毎年お願いしておりますが、日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員（および会員以外の方の）2010年度の著書・論文等の報告にもご協力ください。ウェブ担当補佐の松岡さんと年報担当補佐の宮丸さんまで電子メールでお届けいただければ幸いです。

松岡：***@***／宮丸：***@***

ディケンズ生誕 200 年記念 日本支部論文集（英文）原稿募集要項 Guidelines for Submission of Papers to *Dickens Bicentennial Essays* to be published by the Japan Branch of the Dickens Fellowship

- ・英語によること。All manuscripts submitted should be in English.
- ・長さは6,500語以内とする。図版はこの中に含めない。The length of a manuscript should not exceed 6,500 words, excluding images.
- ・論文の採否は編集委員会が決定する。編集委員会が著者に修正を求める場合がある。Final acceptance or rejection of a manuscript submitted rests with the editorial board. The editors may request revisions of accepted manuscripts.
- ・版権のある図版等を使用する際は、出版前に著者自身が著作権者から使用許諾を受けていなければならない。Permission to reproduce copyrighted materials must be obtained by the author prior to publication.
- ・投稿前に英語のネイティブ・スピーカーによるチェックを受けていること。Authors whose native language is not English should have their manuscripts checked by a native speaker of English prior to submission.
- ・締切は2011年9月30日（厳守）The closing date for manuscripts is September 30, 2011.
- ・投稿は電子メールの添付ファイル（WORDファイル形式またはリッチテキスト形式）として次のアドレスに送信すること。All manuscripts should be sent by e-mail as an attached WORD file or Rich Text Formatted file to the following address: ***@***
- ・採用された論文の著作権は、著者に属する。ただし、論文を最初に出版する権利はディケンズ・フェロウシップ日本支部に属するものとする。Copyright for accepted papers is retained by the authors, with first publication rights granted to the Japan Branch of the Dickens Fellowship.

2011 年度秋季総会予告およびプログラム企画と研究発表の募集 A Call for Papers for AGM, 2011, October 15, at Kyoto University

2011 年度秋季総会は、10 月 15 日（土）に京都大学で開催されます。

総会を元気あるものとするため、会員の皆様からのプログラム企画の提案を募ります。寄せられた提案は今回実施できない場合でも、来年以降に実現できるよう最大限努力します。

【研究発表募集要項】

秋季総会で研究発表を希望される方は、2011 年 8 月 20 日までに、支部長宛電子メールでお申し込みください。その際、審査用として 1,200 字程度、プログラム掲載用として 400 字程度の要約を添付してください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 東京女子大学 英語文学文化専攻 原英一研究室内

電子メール：****@**** 電話(FAX無し)：03-5382-6348（原支部長直通）

おことわり：コストの関係で、会員の皆様にお届けするニュースレターはモノクロ印刷ですが、ウェブではフルカラーです。ぜひウェブの方もご覧ください。